

第71号 通巻13巻 第4号  
 1993年11月1日発行  
 守山市立埋蔵文化財センター  
 ☎0775-85-4397  
 〒524-02  
 守山市服部町2250番地

はじめに

発掘調査の現場でも『今日は寒いですね』という会話が聞えてくる季節になりました。琵琶湖岸を毎日観察していると、日増しに渡り鳥の数が増えている事に気がきます。渡り鳥は、冬の到来を知らせてくれると同時に、最近では風邪のウイルスを運ぶ使者ともいわれています。風邪などひかないで、冬の発掘調査を乗り越えたいものです。

【発掘調査だより】

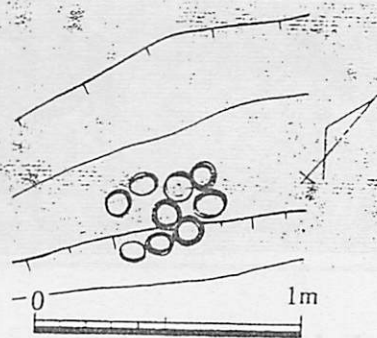
◆ 酒寺遺跡の調査

11月末を目標に現在3つ目の調査区の発掘を進めています。現在までに古墳跡10基、弥生時代後期の大溝2条、古墳時代前期の竪穴住居2棟が検出されています。古墳はすべて6世紀前半代のもので、方墳9基、円墳1基からなります。方墳は大きいもので一辺18×13mを測ります。しかし、墳丘部は削平されていて、周濠が残っているだけです。この周濠部からは供献土器が多数出土していて墓前祭祀が行われたものと見られます。土器はほとんどが須恵器で坏・坏蓋・大型の甕が中心です。この他、滑石製の紡垂車が2個出土しました。これらの古墳の下層からは、古墳時代前期の竪穴住居が検出されています。住居は一辺6mを測り、中央には炉が設けられ、4本の柱穴で屋根を支え、壁ぎわには溝がめぐっています。

番号	遺跡名	所在地	調査原因	調査期間	調査面積
①	酒寺遺跡	播磨田町	店舗建築	前年度より継続調査	約10,000㎡
②	下長遺跡	古高町	工場用地	5/18～9/16	5,072㎡
③	大洲遺跡	阿村町	道路建設	6/22～9/30	2,880㎡
④	伊勢遺跡	伊勢町	共同住宅	9/21～10/15	約500㎡
⑤	古高城遺跡	古高町	共同住宅	10/1～10/15	約500㎡
⑥	寺中遺跡	矢島町	個人住宅	10/13・14	45㎡
⑦	益須寺遺跡	吉身町	道路拡幅	10/20～	約1,000㎡

【平成5年9月～11月1日までの調査】

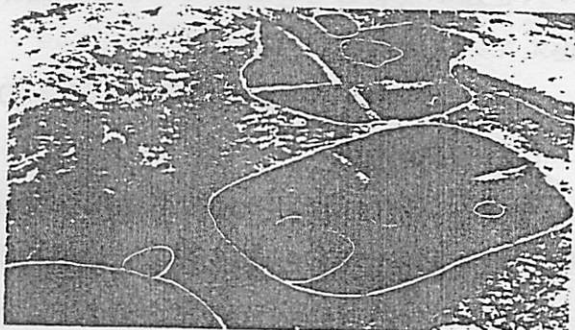
す。弥生時代後期の南北方向の大溝はV字形に掘られていて、幅約6m・深さ2mを測る大規模なもので、環濠の可能性もあります。遺物は少なく、中層から後期の土器片が若干出土しています。位置関係からすると二ノ畦・横枕遺跡の外濠の可能性もあり、今後の調査の進展に期待されます。



▲ 古墳の供献土器

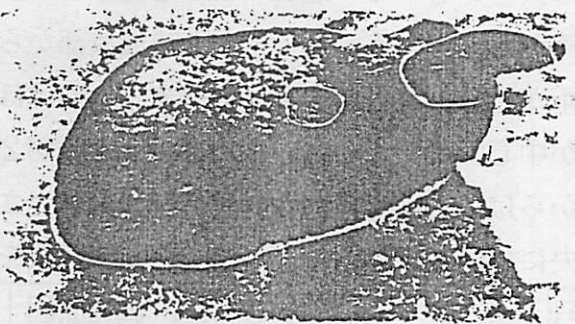
◆ 下長遺跡（第13次）の調査

5月から実施していた大門町字盆瀬坊での調査も9月で終了しました。今回新たに見つかった縄文時代中期の遺構は、古墳時代の地層の下1mの地点にあたります。当時の地形が東から西側にむかって傾斜していたと考えられます。



縄文時代の遺構は竪穴住居・土壇・溝などで、多量の縄文土器のほかサヌカイト製の石鏃・石匙・削器や磨製石斧などが出土しました。下長遺跡の周囲1.5km以内には古高遺跡（古高町）、経田遺跡（今宿町）、霊仙寺遺跡（栗東町）、北太田遺跡（草津市）などの縄文時代中期の遺跡があり、今回の調査成果は移動生活を常とする縄文人のテリトリーを考える上で貴重な資料といえるでしょう。

▲ 縄文時代の遺構



▲ 縄文土器の出土状況

◆ 益須寺遺跡の調査

10月20日より都市計画道路下之郷～吉身線の拡幅工事に先立ち発掘調査を進めています。吉身町スイミングスクール前の三差路角から西方の中山道までの、120m（約1000㎡）を対象に調査をおこなっています。現在までに地表下1.2mの土層から平安時代から中世にかけての溝跡が、さらに40cm下からは、奈良から平安時代にかけての柱穴や溝が検出されています。これらの遺構から出土した須恵器の壺・坏蓋などの遺物の年代は、古代寺院益須寺の造営時期に一致することから、寺院の周辺を探るうえで貴重な資料となるでしょう。

### ◆ 大洲遺跡の調査 (32)

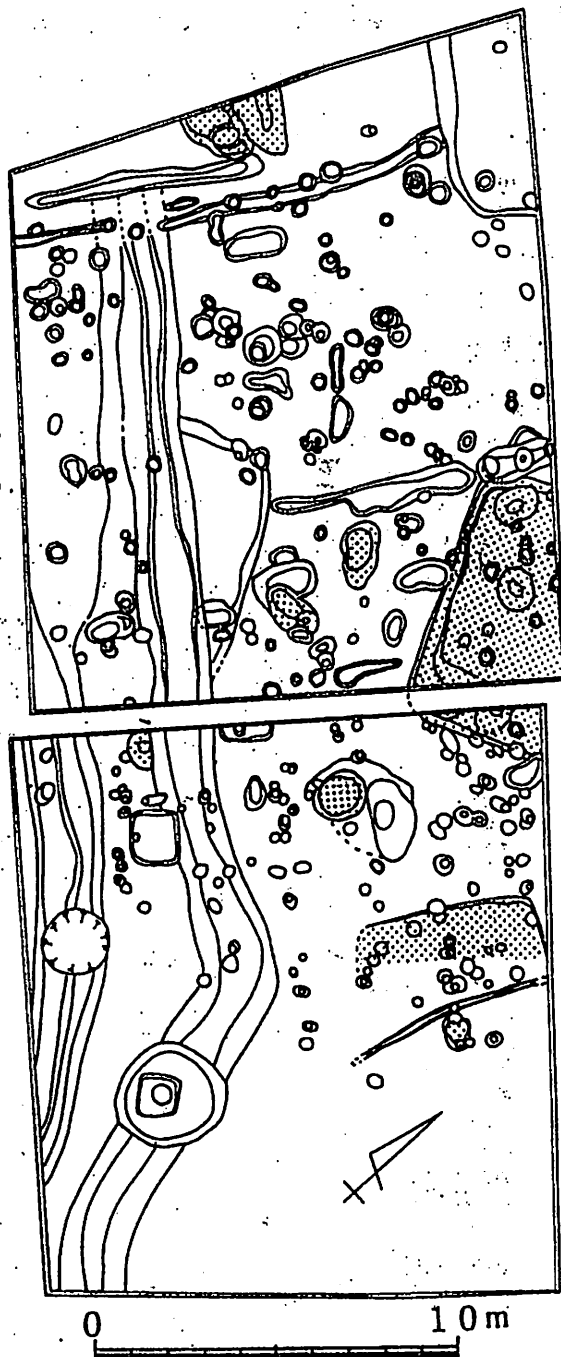
6月21日から阿村町地先で実施していた大洲遺跡の発掘調査は9月30日で終了しました。道路建設ということで幅18m、延長約300mの細長い区画を調査した結果、伊勢遺跡に近い南西側で竪穴住居7棟をはじめ、弥生時代後期の遺構を検出しました。また、調査地のほぼ全域にわたり、古代末から中世にかけての掘立柱建物・土坑・溝が見つかりましたが、弥生時代後期の遺構にくらべると希薄で、散在的な状況でした。

### ◆ 伊勢遺跡の調査 (27)

共同住宅建築に伴い、9月21日から10月15日にかけて発掘調査を実施しました。調査地は伊勢町集落の北縁部で、JR琵琶湖線のすぐ南側の水田地です。約500㎡の調査域のほぼ全面で、掘立柱建物・井戸・溝・土坑を検出しました。遺構の検出状況からみて掘立柱建物や井戸を溝が区画する屋敷地と想定されます。周辺でも数地点で調査が行われていて、その結果や出土遺物からみて鎌倉時代前期に営まれた集落であると考えられます。

この他、弥生時代後期の竪穴住居2棟、土坑6基などが検出（遺構図の網目部分）されています。

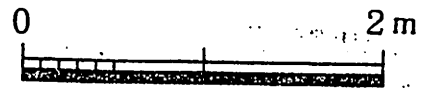
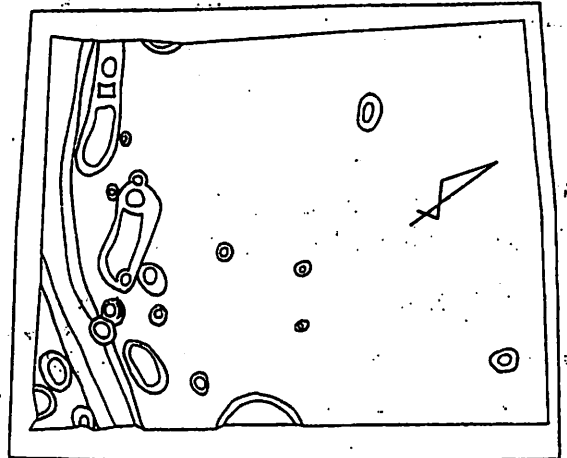
伊勢遺跡の北辺部にあたる今回の調査地点でも竪穴住居が検出されたことから、昨年度、国内最大級の掘立柱建物が見つかった遺跡にふさわしい大規模な集落であったと考えられます。



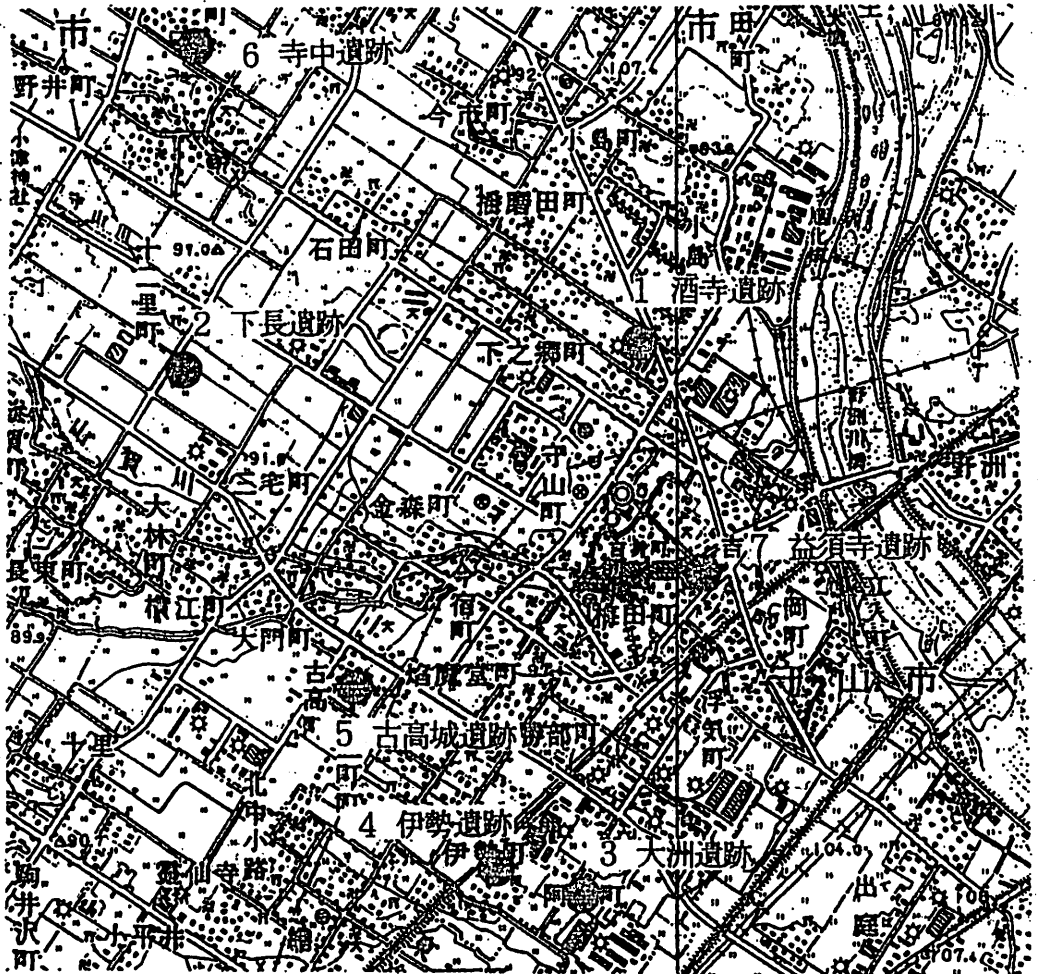
▲ 伊勢遺跡調査平面図

### ◆ 寺中遺跡の調査

矢島町字屋敷田において個人住宅建設に先立ち約45mを対象に発掘調査を実施しました。地表面から1.3m下から溝1条、土壇3基、柱穴16個を検出しました。溝は幅30cm、深さ15cmを測ります。これらの遺構はすべて黒色の粘土で埋まっています。弥生時代中期の土器や獣骨、石包丁などが出土しました。寺中遺跡ではこれまでに7回の調査がおこなわれていますが、明確な集落遺構の検出は少なく、同遺跡の広がりを知るうえで重要な資料といえます。



▲ 寺中遺跡平面図



▲ 調査位置図